東京2020大会・日本博を契機とした

障害者の文化芸術フェスティバル

グランドオープニング

「日本人の自然」を障害者の視点を通じて世界に発信

「日本人と自然」を障害者の視点を通じて国内外に発信する、文化芸術フェスティバルのグランドオープニングを開催します。

障害者の芸術表現、そして障害者が自身の特性とともに生きる様には、日本人が縄文時代から持つ、四季折々の天然の色彩、音の風情を慈しむ心が強く滲み出ています。

本フェスティバルはグランドオープニングを経て、全国の50万人および厚生労働省と連携して、2020年から全国各所で開催します。

2020年　2月7日（金）8日（土） 9日（日）

びわ湖大津プリンスホテル

コンベンションホール淡海、本館3階プリンスホール、ほか

料金

3日間共通パスポート2,000円　単独チケット500円

（単独チケットは展覧会のみ、ワールドフォーラムのみ等　1プログラム対象。当日限り有効。映画は1作品ずつ）

同通機器貸出料　1,000円（アール・ブリュットワールドフォーラム用。2日間有効）

小学生以下は無料　障害のある方の付添者は1名無料

同時開催されている第24回アメニティーフォーラムには、別途お申込みが必要です。

アメニティーフォーラム参加者は名札の呈示で全プログラム鑑賞ができます

１　鑑賞・体験

アール・ブリュット －日本人と自然－ 展

全国各地から推薦のあった作品など全国のアール・ブリュット作品を展示

バリアフリー映画祭

アニメ作品を含め全８作品のバリアフリー映画を上映、一部上映作品の監督によるトーク有

障害者の舞台芸術 見本市

和太鼓、音楽、ダンス、伝統芸能など多彩なプログラムを全国のパフォーマンス団体が発表

体験プログラム　－表現の源泉－

訪日外国人が障害者の文化芸術活動を通して、日本の魅力を体験する

２　障害者団体芸術文化活動紹介

主催者である全国ネットワークの構成団体から推薦のあった取り組みのうち、ハンドスタンプアートプロジェクトと日本肢体不自由児協会からの推薦作品を展示

３　国際交流を通して世界に発信

アール・ブリュットワールドフォーラム

世界各国からアール・ブリュット等の推進に取り組む実践者を招へい

中面

アール・ブリュット －日本人と自然－ 展

2020年2月7日（金）～9日（日）

9：00～19：00（最終日は14：00まで）

コンベンションホール淡海８・９

人が持つ揺るぎのない表現欲求に気付かせてくれるアール・ブリュット。

多彩な方法により生み出される作品には、この世界を構成する万物の色、音、風景などが凝縮した形となって溢れています。

本展はアール・ブリュットの視点を通じて、「日本人と自然」を紹介する展覧会です。また、海外の作品を同時並列に展示することで、日本の作品の特色や魅力を浮かび上がらせます。

タイムテーブル

障害者の舞台芸術見本市

2020年2月8日（土）

プリンスホール

11:00 - 12:00

瑞宝太鼓 （長崎県）

13:00 - 14:00

生笑一座 （福岡県）

14:15 - 15:15

近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」 （埼玉県）

15:45 - 16:45

サルサ・ガムテープ（神奈川県）

17:00 - 17:20

口笛　白井いさお （大阪府）

17:30 - 19:30

表現するということ　－消える言葉、生まれる声－

小室等（ボーカル・ギター）、坂田明（サクソフォン）

谷川賢作（ピアノ）、吉田隆一（サクソフォン）

高良久美子（パーカッション）、竹田裕美子（キーボード）

こむろゆい（ボーカル、ウクレレ）、李政美（ボーカル）

ゲスト:福島智（東京大学先端科学技術センター教授）、湖南ダンスカンパニー他

2020年2月9日（日）

13:30 - 14:30

石見神楽　いわみ福祉会芸能クラブ （島根県）

14:45 - 15:45

湖南ダンスカンパニー（滋賀県）

アール・ブリュット ワールドフォーラム

2020年2月7日（金）

13:00 - 13:15

オープニング　三日月大造（滋賀県知事）予定

13:25 - 15:10

セッション(1)　「公共政策と芸術」

プレゼンテーション

マルティーヌ・リュザルディ（パリ市立アル・サン・ピエール美術館長）

ジェイド・フレンチ（リーズ大学美術・美術史・文化研究学部客員研究員）

太下義之（文化政策研究者、独立行政法人国立美術館理事）

パネルディスカッション

マルティーヌ・リュザルディ、ジェイド・フレンチ、太下義之

コメンテーター

ジャン＝マルク・エロー（フランス元首相、ナント市名誉市長）

モデレーター

西川賢司（社会福祉法人グロー）

15:30 - 15:50

「報告　障害者の芸術文化　全国の取り組み」

福島民友新聞 「2020年福島でのアール・ブリュット展」

16:00 - 18:10

セッション(2)「アール・ブリュットとは何か」

特別講演

コリン・ロードス（シドニー大学美術史学・美術理論名誉教授）

プレゼンテーション

スエブソン・サンワチラピバン（バンコク芸術文化センター学芸部長） トーマス・レスケ（プリンツホルンコレクションディレクター）

パネルディスカッション

コリン・ロードス、スエブソン・サンワチラピバン、トーマス・レスケ

モデレーター

パトリック・ギゲール（フランス国立現代芸術センターリュー・ユニック館長）

2020年2月8日（土）

9:15 - 10:45「農福食」

日本流 食×障害×文化の世界発信について考える

新免修（山城就労支援事業所さんさん山城施設長）

磯部竜太（社会福祉法人無門福祉会事務局長）

小川緒理江（NPO法人縁活おもや所長）

坂本彩（彩社会福祉士事務所代表）

モデレーター :

菅沼敏之（社会福祉法人グロー）

11:00 - 11:50「フォーラム」無料

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟　＋　障害者の芸術文化振興議員連盟

12:00 - 13:00「ワールドミーティング」会場：伊吹

ランチをとりながら、ワールドフォーラム登壇者など各国のみなさんと国際連携を深めるワールドミーティング

※どなたでも参加いただけます。参加費　3,000円

13:30 - 14:15

セッション(3)　「特別対話　そこにいるのはダンサーだけ」

パトリック・ギゲール

北村成美（ダンサー・振付家）

14:30 - 1615

セッション(4)「アール・ブリュット、現代アートと町」

プレゼンテーション

横井悠（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA主任学芸員）

エマーソン・クンシェン・ワン（Presense International Inc.芸術監督）

ブディ・アグン・クスワラ（クテム・プロジェクト代表）

パネルディスカッション

横井悠、

エマーソン・クンシェン・ワン

ブディ・アグン・クスワラ

コメンテーター

青柳正規（前文化庁長官、山梨県立美術館館長）

モデレーター :パトリック・ギゲール

16:30 - 17:10

セッション(5)　「日本政府が推進する障害者の文化芸術施策、そして日本博について」

杉浦久弘（文化庁審議官）

野村知司（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課課長）

モデレーター :西川賢司

17:15 - 18:45

セッション(6)　「評価してこなかったものを評価すること」

リン・クック（ワシントン・ナショナル・ギャラリー現代美術部門シニアキュレーター）

聞き手 : 保坂健二朗（東京国立近代美術館主任研究員）

バリアフリー映画祭 2020

2020年2月7日（金）

12:30 -　開場

13:00 - 15:07

『轢き逃げ　最高の最悪な日』

上映後　水谷 豊 監督トーク

16:10 - 18:07

『閉鎖病棟－それぞれの朝－』

上映後 　平山秀幸 監督トーク

21:05 - 22:26

『オキナワへいこう』

上映後 大西暢夫 監督トーク

22:45 - 24:23

『インディペンデントリビング』

2020年2月8日（土）

9:30 - 　開場

10:00 - 11:57

『閉鎖病棟－それぞれの朝－』

上映後　平山秀幸 監督トーク

12:50 - 14:30

『日日是好日』

上映後 大森立嗣 監督トーク

15:30 - 17:01

『しがらきから吹いてくる風』

上映後　関係者トーク

18:05 - 19:43

『インディペンデントリビング』

上映後　田中悠輝 監督トーク

20:35 - 22:08

『まひるのほし』

上映後　高橋陽子ほか トーク

22:55 - 24:16

『オキナワへいこう』

2020年2月9日（日）

9:30 - 開場

10:00 - 11:34

『若おかみは小学生！』

上映後 作品解説

コンベンションホール淡海10

アール・ブリュット　ワールドフォーラム

2020年2月7日（金）13：00～18：10

2020年2月8日（土）9：15～18：45

（日・英同時通訳あり）

世界各国からアール・ブリュット等の推進に取り組む実践者を招へいし、2020年以降の国際的なネットワーク構築に向けての議論、その成果を広く国内に発信します。

セッション1　公共政策と芸術

マルティーヌ・リュザルディ （パリ市立アル・サン・ピエール美術館長）

ジェイド・フレンチ（リーズ大学美術・美術史・文化研究学部客員研究員）

太下義之 （文化政策研究者、独立行政法人国立美術館理事）

ジャン＝マルク・エロー （フランス元首相、ナント市名誉市長）

セッション２アール・ブリュットとは何か

コリン・ロードス （シドニー大学美術史学・美術理論名誉教授）

スエブソン・サンワチラピバン （バンコク芸術文化センター学芸部長）

トーマス・レスケ （プリンツホルンコレクションディレクター）

セッション３　特別対話

パトリック・ギゲール（フランス国立現代芸術センターリュー・ユニック館長）

北村成美（ダンサー・振付家）

セッション４　アール・ブリュット、現代アートと町

横井　悠（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA主任学芸員）

エマーソン・クンシェン・ワン（Presense International Inc.芸術監督）

ブディ・アグン・クスワラ（クテム・プロジェクト代表）

青柳正規（前文化庁長官、山梨県立美術館館長）

セッション５日本政府が推進する障害者の文化芸術施策、そして日本博について

杉浦久弘（文化庁審議官）

野村知司（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課課長）

セッション６評価してこなかったものを評価すること

リン・クック(ワシントン・ナショナル・ギャラリー現代美術部門シニアキュレーター)

保坂健二朗（東京国立近代美術館主任研究員）

本館２階比叡

バリアフリー映画祭2020

2020年2月7日（金）～9日（日）

目や耳が不自由な人たちが、人生を豊かにする娯楽のひとつである映画の鑑賞に親しめるよう映画のバリアフリー化に取り組み始めて15年が経ちます。

この間UDCastという映画の新しい鑑賞技術を開発し、手持ちのアイフォンやメガネ型端末などを使って、バリアフリー字幕だけでなく多言語字幕や音声ガイドを同期させ提供する仕組みも定着してきました。

そして今や、バリアフリー映画は映画の未来型のひとつとして、映画表現をより多面的、立体的に深化させるところまで来ています。

映画の誕生からまだ125年しか経っていないその浅い歴史を振り返ってみても、限りない可能性を持ったものが映画だと考えています。

「バリアフリー」は単なる情報保障の方法ではなく、私たちの文化の明日を拓く思想だと思っています。

（映画祭プロデューサー　山上徹二郎）

オープニング作品

轢き逃げ　最高の最悪な日

監督・脚本:水谷　豊

出演:中山麻聖　石田法嗣　小林涼子　毎熊克哉　水谷豊　檀ふみ　岸部一徳

2019/日本/127分

ある地方都市で起きた交通事故。

一人の女性が命を落とし、轢き逃げ事件へと変わる。

車を運転していた青年・宗方、助手席に乗っていた親友・森田。二人は宗方の結婚式の打合せに急いでいた。

婚約者は大手ゼネコン副社長の娘・白河。

悲しみにくれる被害者の両親。

その事件を担当するベテラン刑事・柳と新米刑事・前田。

平穏な日常から否応なく事件に巻き込まれ、それぞれの人生が複雑に絡み合い、抱える心情が浮き彫りになっていく。

その悲劇の先に、彼らは何を見つけられるのか？

閉鎖病棟　それぞれの朝

監督・脚本:平山秀幸

出演:笑福亭鶴瓶　綾野剛　小松菜奈

2019/日本/117分

長野県のとある精神科病院。

死刑執行が失敗し生きながらえた秀丸（笑福亭鶴瓶）。

幻聴に悩まされるチュウさん（綾野 剛）。DVが原因で入院する由紀（小松菜奈）。

三人は家族や世間から遠ざけられながらも心を通いあわせる。

 彼らの日常に影を落とす衝撃的な事件はなぜ起きたのか。

それでも「今」を生きていく理由とはなにか。

法廷で明かされる真実が、こわれそうな人生を夜明けへと導く―――。

オキナワへいこう

監督・撮影・編集:大西暢夫

2018/日本/81分

精神科の長期入院の患者を抱える大阪の浅香山病院が舞台だ。

何十年と入院し続け、退院の見込みはほとんどない慢性期病棟。

そんな中、一人の患者が「沖縄に行きたい」という夢を語ったことがきっかけで、有志の看護師たちが動き始めた。

 沖縄旅行は、5人中2人しか実現しなかったが、その些細なきっかけが、精神科病棟に風を吹かせ、患者の生きかたを変えた。

日日是好日

監督・脚本:大森立嗣

原作:森下典子『日日是好日「お茶」が教えてくれた15のしあわせ』(新潮文庫刊)

出演:黒木華　樹木希林　多部未華子　鶴田真由　他

2018/日本/100分

真面目で、理屈っぽくて、おっちょこちょい。そんな典子は母に勧められて、お茶を習うことになった。

二十歳の春だった。それから二十四年。就職の挫折、失恋、大切な人との別れ。

いつも側にはお茶があった。五感を使って、全身で、その瞬間を味わった。

やがて「日日是好日」という言葉をかみしめていく美しき時の流れ。

この映画は、内なる自由と生きる喜び、そして、かけがえのない“今”を描く物語である。

しがらきから吹いてくる風

監督:西山正啓

音楽:小室等　製作:山上徹二郎

1990/日本/91分

信楽は狸の焼物で知られる窯業の里。

この町を支えるのは、「知恵おくれ」と呼ばれる人びと。

彼らは106人、町の全就労者の5％を占めるといわれ、多くは小さな家内製陶所で働く。

そんな彼らのほとんどが住む「信楽青年寮」にスタッフが7ヵ月住み込んで、この映画は作られた。

彼らが働く世界を決して“能力”や“能率”という視点で視ることはせず、人が人とかかわり一緒に生きている世界を記録した作品である。

（1990年の製作当時の表現のままとしています。）

インディペンデントリビング

監督:田中悠輝

プロデューサー:鎌仲ひとみ 撮影:辻井潔　岩田まき子　田中悠輝　マット・フィールド

編集・構成：辻井潔

2019/日本/98分

物語の舞台は大阪にある自立生活センター。

ここは障害当事者が運営をし、日常的に手助けをする人に対して、一人暮らしができるよう支援をしている。

映画は、家族との衝突や、ヘルパーをはじめとした人間関係作りなど、課題にぶつかりながらも自立生活を志し、ささやかに、けれども確実に変化していく人々の姿を丁寧に映し出していく。

監督は、自らも介助者として働く田中悠輝。

まひるのほし

監督:佐藤真

撮影監督:田島征三　製作:山上徹二郎　庄幸司郎

出演:舛次崇　西尾繋　伊藤喜彦　他

1998/日本/93分

映画に登場するのは7人のアーティストたち。

彼らは知的障害者と呼ばれる人たちでもある。

映画製作の状況を佐藤は「撮っていくうちにアートとは何かということがわからなくなってきた。色の洪水や意味不明の土の固まり、落書きやメモ、はてはただの叫び声や沈黙までがアートであるとほんとうに思えてきた」と回想している。

「アートとは何か？」と素直に悩み、世間の呪縛から自由になったこのコラージュ映画こそ、まさにアートになった。

若おかみは小学生！

監督:高坂希太郎

声の出演:小林星蘭　水樹奈々　松田颯水　他

2017/日本/94分

小学6年生のおっこ（関織子）は交通事故で両親を亡くし、おばあちゃんが経営する花の湯温泉の旅館＜春の屋＞で若おかみ修業をすることに。

ライバル旅館の跡取りでクラスメイトの真月から「あなた若おかみじゃなくて、バカおかみなの！？」とからかわれながらも、旅館に昔から住み着いているユーレイのウリ坊や、子鬼の鈴鬼たちに励まされながら、持ち前の明るさと頑張りで、お客をもてなしていく。

いろんなお客と触れあっていく内に、旅館の仕事の素晴らしさに気づき少しずつ自信をつけていくおっこだったが。

誰もが参加できるために

障害者の舞台芸術フェスティバルは、障害の有無に関わらず誰もが楽しめるような取り組みをします。当日は、来場者の滞在や鑑賞をサポートする窓口となるウェルカムセンターを設置する他に、それぞれのプログラムでは手話通訳などの情報保障も行います。主な取り組みは次のとおりです。

詳細については、随時、ホームページに掲載しますので皆さまの来場をお待ちしています。

ウェルカムセンター

来場者の滞在や鑑賞をサポートする窓口を設置します。

カームダウンスペース

当日、気分がすぐれなくなった方のための休憩室を用意します。

ウェルカム電話、ＬＩＮＥ

開催期間中、専用のお問合せ電話およびＬＩＮＥを開設します。

※開催前の問い合わせは下記の連絡先までお願いします。

車いす利用者の送迎対応

車いす利用者の方のために大津駅から会場のびわ湖大津プリンスホテルまで専用バスを準備します（付添者は１名乗車可能）。

運行時刻は追ってホームページに掲載します。

手話通訳等の情報保障に関すること

手話や要約筆記などにより、それぞれのプログラムで情報保障を行います。

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会

共催：滋賀県、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟

連携：厚生労働省

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク（事務局：全国手をつなぐ育成会連合会）

(1)(社福)日本身体障害者団体連合会、(2)(社福)日本視覚障害者団体連合、(3)(一財) 全日本ろうあ連盟、(4)(一社) 全国肢体不自由児者父母の会連合会、(5)(社福) 全国重症心身障害児(者)を守る会、(6)全国手をつなぐ育成会連合会、(7)(公財) 日本知的障害者福祉協会、(8)(特非) 全国地域生活支援ネットワーク、(9)(公社) 全国精神保健福祉会連合会、(10)(一社) 日本精神科看護協会、(11)(一社) 日本自閉症協会、(12)(一社) 日本発達障害ネットワーク、(13)全国社会就労センター協議会、(14)(特非) DPI日本会議、(15)全国社会福祉法人経営者協議会、(16)全国身体障害者施設協議会、(17)(特非) 日本相談支援専門員協会、(18)(一社) 日本精神保健福祉事業連合、(19)(一社) 全国児童発達支援協議会、(20)(一社) 全国知的障害児者生活サポ－ト協会、(21)(公財) 日本ダウン症協会、(22)(特非) バリアフリー映画研究会、(23)(社福) 全国盲ろう者協会、(24)(社福) 日本肢体不自由児協会、(25)(特非) 手話ダンス YOU&I、(26)(一社) 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会、(27)(一社) HAND STAMP ART PROJECT、(28)(公社)日本発達障害連盟、(29)ジェネシス・オブ・エンターテインメント

障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会（事務局：社会福祉法人グロー）

(1)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、(2)(一財)KODAMA国際教育財団、 (3)(社福)愛成会、 (4)(社福)明日へ向かって 、(5)(社福)いわみ福祉会、(6)(社福)グロー(GLOW)、(7)(社福)昴、 (8)(社福)清心会 、(9)(社福)南高愛隣会 、(10)(社福)はる、(11)(社福)フラット、 (12)(社福)みんなでいきる 、(13)(社福)八ヶ岳名水会 、(14)(社福)ゆうかり、(15)(社福)ゆうゆう 、(16)(一社)日本精神科看護協会 、(17)(特非)DPI日本会議、 (18)(特非)鳥の劇場、(19)(特非)脳損傷友の会高知 青い空、 (20)(特非)バリアフリー映画研究会、 (21)(特非)楽笑、(22)湖南ダンスワークショップ実行委員会、 (23)滋賀県、 (24)島根県、 (25)鳥取県、 (26)長崎県

会場アクセス：:滋賀県大津市におの浜4-7-7

【電車をご利用の場合】

JR「大津駅」から無料シャトルバスまたはタクシーで約10分。

※びわ湖大津プリンスホテルのホームページで京都駅新幹線中央乗り換え口からホテルまでのアクセス動画を確認することができます。https://www.princehotels.co.jp/otsu/access/

【車をご利用の場合】 名神高速道路・大津I.C.より3.7km（平常時約10分）。京滋バイパス石山I.C.から422号経由で6.9km（平常時約15分）

問い合わせ

障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会事務局（社会福祉法人グロー［GLOW］）

521-1311　滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL:0748-46-8100　FAX:0748-46-8228

Mail:kikaku@glow.or.jp

URL：http://artbrut-creation-nippon.jp